

れています。しかし、今回は呼吸数の変動 Pattern の記録はしてありませんので正確なことは判りませんが、少くとも臨床症状から呼吸切迫状態は認めませんでした。

質問 (日赤産院) 中嶋 唯夫

1. 湿度も保育環境の中で重要であるが、どのようになされているか。

2. RDS の症例などでは、70~75%程度では低過ぎる。90%の湿度も必要であると考えられるが、どのように調節されているか。

答弁 (新潟大) 千村 哲郎

1. 湿度は60~70%に保つています。neutral zone にあれば、高湿度は未熟児熱損失に関係ないといわれています。

2. 無論、病的合併児では、熱平衡のみでなし、他の因子への関心も必要であると考えます。

質問 (東北大) 安達 寿夫

死亡率が $\frac{1}{2}$ になつたというには検討症例が少すぎる。せめてコントロール群、テスト群双方の死亡例はすべて病理解剖して内臓奇形その他保育様式と関係のない病因を除外すべきであろう。解剖しておられるなら、その成績を知りたい。

答弁 (新潟大) 千村 哲郎

確かに、症例数は少いことを認めます。死亡率が $\frac{1}{2}$ になつたとの結論は、臨床所見によつたものです。すくなくとも、M.T.C 群での外表奇形死亡例は除外してあります。

80. 蛋白同化ステロイドの授与をうけた未熟児の青春期における性機能

(和歌山県立医大)

一戸喜兵衛、木脇 祐普、○池田武司

横田 栄夫、勝 信昭、馬淵 義也

成川 守彦、細道 太郎、坂本 干城

(北海道大) 朝野 幸郎、西垣内善隆

蛋白同化 Steroids が、本邦で新生児に使用されてすでに20年近くたち、青春期に入つたものが次第にその数を増している。さて一方、一戸らは、微量の蛋白同化 Steroids を生後間もない幼仔に投与して androgen-sterility 現象とまったく同じ現象を認め、この生後間もない時期に与えられた蛋白同化 Steroids がひきおこす症候が人類でも当然検討されなければならないこととなつた。

今回われわれは、24名の未熟児を含む新生児で、生後直ちに Methyl androstenediol や Testosterone propionate

の授与を受け、現在すでに初潮を認めている32名について、その性機能を追跡している。これらの対象例に対する Steroids の授与量は per Kgr にして単ならばいわゆる androgen-sterility をひき起こす充分量が与えられたものである。

まず初潮発来年令では Steroids 使用群は平均12才5ヵ月で、対照の未熟児群や和歌山看護学生に比べ推計的に差違が認められていない。また Steroids 使用群で初潮未発来のもので、それが異常に遅れているものはない。つぎに月経周期であるが Steroids 処置群の月経周期正順率は高く対照と差がなく、月経持続日数も平均 5.5日とくに異常はなかつた。また Steroids 授与群での BBT は予想に反して二相性のものが案外多いことが判明し、BBT にあわせて測定した尿中 pregnanediol も高温相中期においては排卵、黄体形成を証明するに充分な一日量を示すものが、しばしば指摘されている。

以上人類において大量の蛋白同化 Steroids や Testosterone propionate が出生直後より与えられた例では単の androgen-sterility 現象にみられるような性周期の破綻はみられない。これらの事実は、人類の間脳性中枢の分化期は、単で critical phase として推定された生後5日までという時期とは明らかにずれていることを推測させるものである。

81. 未熟児、低出生体重児の血液凝固学的研究

(北海道大) 松田 正二、○鈴木重統

意義：ただでさえ出血性素因のある新生児期において、在胎日数の少ない早産未熟児および SFD はその handicap が一きわ強調される可能性がある。そこで成熟児に比べて未熟児、SFD においてはどのような点で血液凝固学的に差異があり、どの程度の期間で成熟児の水準に達するかということを追求した。

方法：1) Ca 再加時間 2) 血小板数 3) プロトロンビン時間 4) トロンボテスト 5) TEG により血液凝固能の推移を日令によつて追及し、さらにビタミンKを投与してこれに如何に反応するかを検索した。さらにアグルのメーターにより血小板の機能を調べた。

成績：1) 未熟児は、ビタミンKに対する反応がきわめて遅く、在胎日数が短ければ短いほど著しい。2) 上記 1)~4) のいずれにおいても成熟児に比して劣つていたが血小板の数および機能に明らかな違いがみとめられた。3) TEG においては、 $r+k$, r の差が明瞭であつた。